

第9回 姉妹校交流にて訪独した生徒の感想

今回の短期留学は私が国際理解への意識を高めるきっかけとなりました。

私が今回の短期留学に参加したきっかけは、昨年9月から10月にかけて、行われた本校のカントギムナジウム校の生徒、教員の受け入れにホストファミリーとして参加したことです。昨年度の行事を通じ、私は多くのドイツの留学生と交流を深め、彼らが生活をしているドイツにはどのような文化や歴史があるのかについて現地での生活を通じて学びたいと思い、今回の短期留学を決意しました。私にとって今回の留学は私の人生で初めての留学であり、初のヨーロッパでの生活でした。その中で、私が現地で生活するにあたり不安だったことは言葉の壁でした。なぜなら、昨年度の経験から、私は自分の英語力では留学生との会話ができないことを痛感し、今回の短期留学でお世話になるホストファミリーたちに迷惑をかけてしまうと思い、とても心配になりました。しかし、今回の留学を通じて、言葉が通じなくてもコミュニケーションをとる姿勢を見せることが大切だと感じました。

実際に現地での生活が始まり、私はホストファミリーの生徒と予定を相談したり、学校などで生活する中で、自分の気持ちを相手に伝えるため、常に反応をオーバーにとるように意識しました。家や外出でご飯を食べ、おいしいと感じたり、日本と違うものや同じ味のようなものがあつたりしたら、「Laker (おいしい)」などと自分の感情を表現できるような単語を使うよう努力しました。また、ホストファミリーの生徒とフリータイムの予定について話し合うときには自分が何をしたいのかをはっきりと伝えるようにしました。その結果、私のこれらの行動が相手を困らせてしまうこともありましたが、自分のスタイルを最後まで突き通したことで、徐々にホストファミリーを含めドイツ人たちは私が伝えたいことを理解してくれたように感じました。

今回の留学の10日間を振り返ると日本の生活では感じることでできない言葉が通じないことなどの不便さや反対にドイツで、できた家族とも呼べる友達と過ごした思い出やカントギムナジウム校との交流のほかに教会や古城そしてボッパルトなど多くの遺跡や街並みを観光するなどたくさんの思い出をつくることができました。

私は将来、世界を舞台として働くことのできる国際関係の仕事に就職したいと考え、今回の短期留学は私が世界を知るための一歩目の階段を登れたように感じました。今後も私は世界について知るために世界の色々な文化や習慣に触れ、これらに対する知識を深めていきたいと考えています。

最後になりましたが、青梅総合高校がカントギムナジウム校を訪れるのは今年度で五回目となります。この行事が、私が卒業してもなお、何百年も続き、両校の生徒たちの絆が永遠に続いてほしいと心の底から思っています。そして、このような貴重な体験の機会を私たちに与えてくださった先生方、保護者の方に感謝しています。

